

---

# 僕と彼女

S O R

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕と彼女

### 【Nコード】

N6661B

### 【作者名】

SOR

### 【あらすじ】

僕と彼女が出会い、彼女の世界、価値観を僕が見て感じたままに描いた作品。

僕は彼女を怒らない。

部屋がどんなに汚かろうと、リバウンドしてまた太ろうとも、禁煙に失敗しても、誰かをキズつけたとしても、僕は彼女を怒らない。

彼女が恐いから？

違う。

彼女に嫌われたくないから？

それも違う。

彼女が誰よりも自分に厳しく自分を罰し、自分を愛せないことを知っているからだ。

顔はかわいいほうだろう。

化粧が少し濃い。

年上によく見られがちと、よくスネていた。

明るく、いつも笑顔で、友達も多い。

そんな彼女に出会ったのは2年前の冬。

彼女が21の時だ。

彼氏と別れることになったのだと、

彼女は笑っていた。

目が赤く腫れていた。

僕は何も言わなかった。

言おうともしていなかったかもしれない。

彼女は慣れない手つきで、タバコに火をつけ、  
「マズい…」と一言だけ言って泣いていた。

それからの3ヶ月間、彼女は、耳が痛くなるぐらいに音楽を聞き、  
タバコを吸い、每晚友達を誘って飲み歩いていた。  
僕は相変わらず、何も言わなかった。

しばらくして、彼女は近所でバイトを始めた。  
整形手術をしたいのと言う。  
やっぱり、僕は何も言わなかった。

夏に、彼女は貯まったお金で手術を受けた。  
彼女は気に入っていたが、あまり変わっていないように思えた。

少し時が経って、彼女は見るからに痩せていた。  
添加物を、いっさい体に入れたくないのだという。  
僕は、また何も言わなかった。

あれから1年が過ぎて、彼女は別れた彼氏と会った。  
何があつたかは聞かなかった。

その年初めての雪が降って、  
彼女は初めて僕に答えを求めてきた。  
自分は生きている意味があるのかと。  
僕は答えなかった。  
変な質問してゴメン、と彼女は笑った。

次の日も、その次の日も彼女は笑顔でいた。  
無理をしているように見えなかったが、  
どこかさびしそうだった。

僕は、ずっとわかっていた。

彼女が生き苦しがつていることを。

何も手に入れられず、もがいていることを。

100か0かの世界に住み、ダメな自分を受け入れられずにいる彼女の弱さを、

僕はずっとわかっていた。

彼女自身もきつと気付いているのだろう。

彼女の求めているものはこの世にないのだと。

太ること、痩せること、肌がアレること、髪が傷むこと、部屋が散らかること、

誰かをキズつけてしまうこと、生きていたら避けては通れない。

もっともっと過酷な状況で苦しんでいる人が、ゴマンといるだろう。

彼女は漠然と、自分の生きている小さな世界で苦しんでいた。

僕は彼女の恋人ではない。きっと友達でもない。

それでも僕は彼女を待つだろう。ずっとずっと。

彼女が自分で自身を抱き締められる、その日まで。

(後書き)

最後まで読んで下さって  
ありがとうございます！

人それぞれ、価値観が違い  
悩みも違って、生きている。  
そんな思いで書きました。

どんな感想でもいただけると  
嬉しいです(^^)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6661b/>

---

僕と彼女

2011年1月27日02時38分発行